

# 京急グループの成長戦略

## 京浜急行電鉄株式会社

東証第1部（証券コード：9006）

取締役社長 原田 一之

2019年11月23日



大和コンファレンスホール

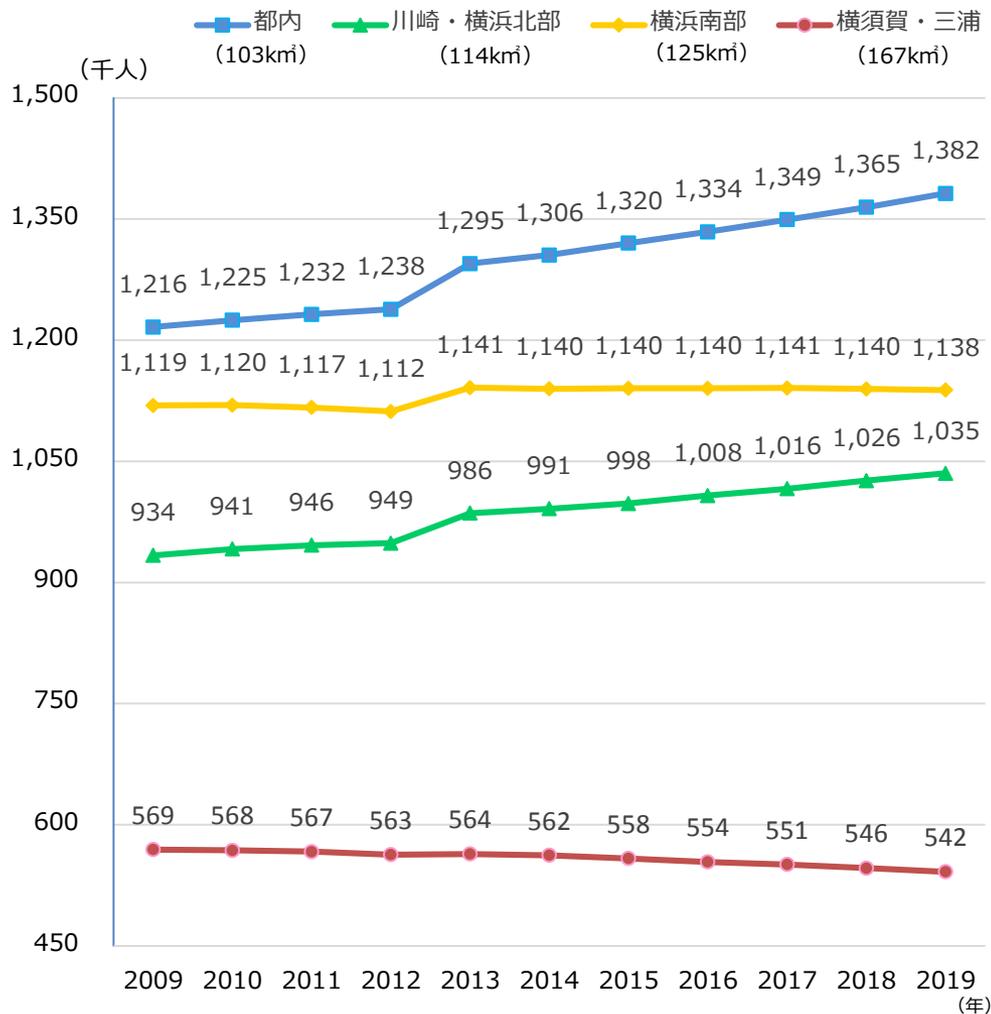


# 京急グループの事業概要

## 京急線沿線の人口増減



## 京急線沿線の人口推移（エリア別）



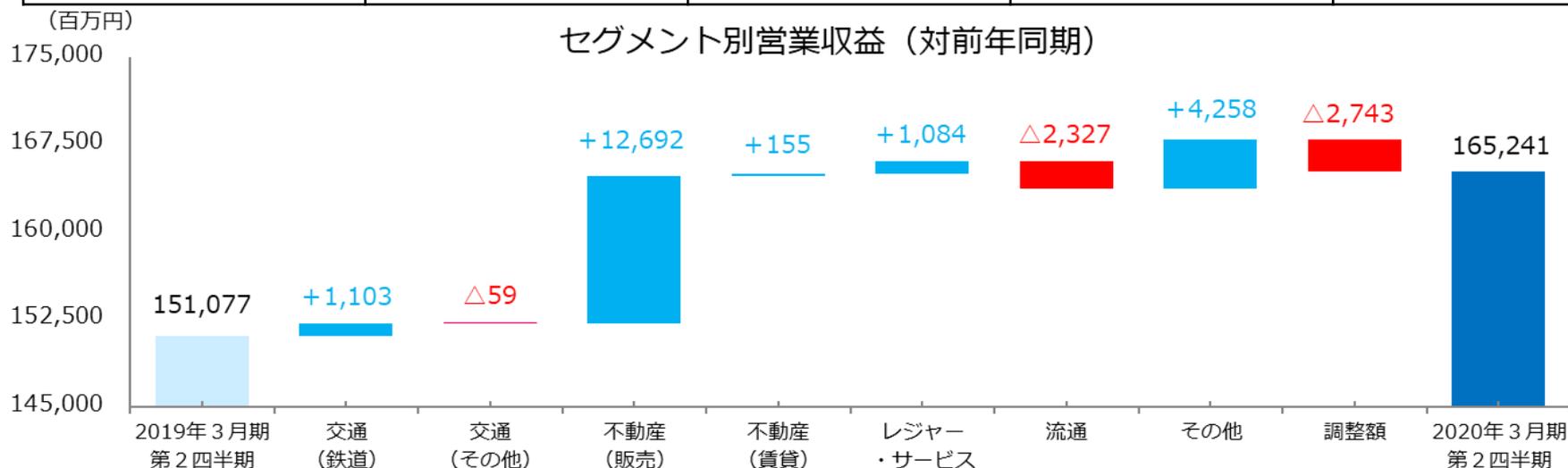
※住民基本台帳を基に当社作成  
 ※凡例下の（）内はエリア面積

◆ 営業収益（対前年同期比 **141億円増収 9.4%増**）

・分譲マンション販売の好調や、マンション事業計画用地の売却などにより増収

（単位：百万円）

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減額	増減率 (%)
営業収益	151,077	165,241	14,164	9.4
営業利益	19,222	21,708	2,485	12.9
経常利益	17,994	20,395	2,400	13.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12,368	13,751	1,382	11.2

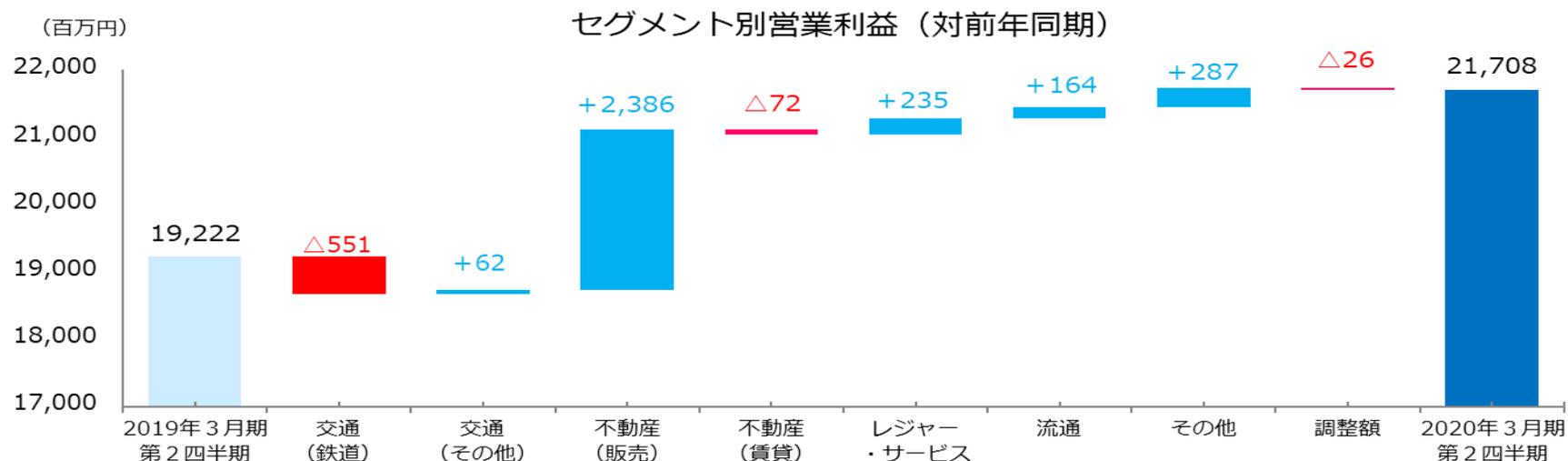


◆ 営業利益（対前年同期比 **24億円増益 12.9%増**）

- ・分譲マンション販売の好調や、マンション事業計画用地の売却などにより増益

（単位：百万円）

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減額	増減率（%）
営業収益	151,077	165,241	14,164	9.4
営業利益	19,222	21,708	2,485	12.9
経常利益	17,994	20,395	2,400	13.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12,368	13,751	1,382	11.2



## ◆ 5月発表の通期業績予想は、据え置き

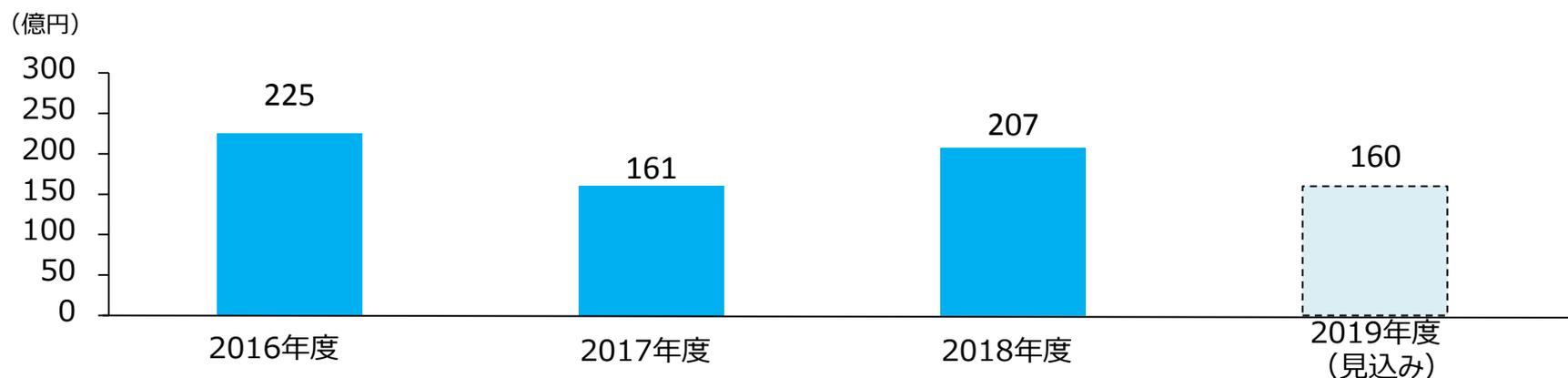
## ＜据え置きの理由＞

- ・下期は、10月1日からの空港線の加算運賃引下げに伴う減収・減益
- ・上期に分譲マンション販売が好調に推移し、下期分を前倒して販売したため、下期は減収・減益
- ・上期に見込んでいた修繕工事費などの費用の期ずれ

(単位：億円)

	2019年3月期	2020年3月期	増減額	増減率(%)
営業収益	3,392	3,250	△142	△4.2
営業利益	401	285	△116	△29.0
経常利益	377	255	△122	△32.5
親会社株主に帰属する当期純利益	207	160	△47	△22.8

(参考) 親会社株主に帰属する当期純利益 (△純損失) の推移



# 京急グループの成長戦略



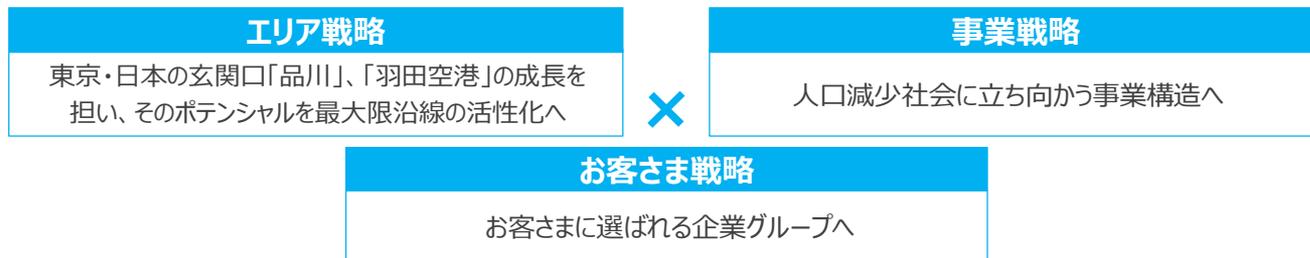
## グループ理念

都市生活を支える事業を通して、  
新しい価値を創造し、社会の発展に貢献する

## 長期ビジョン

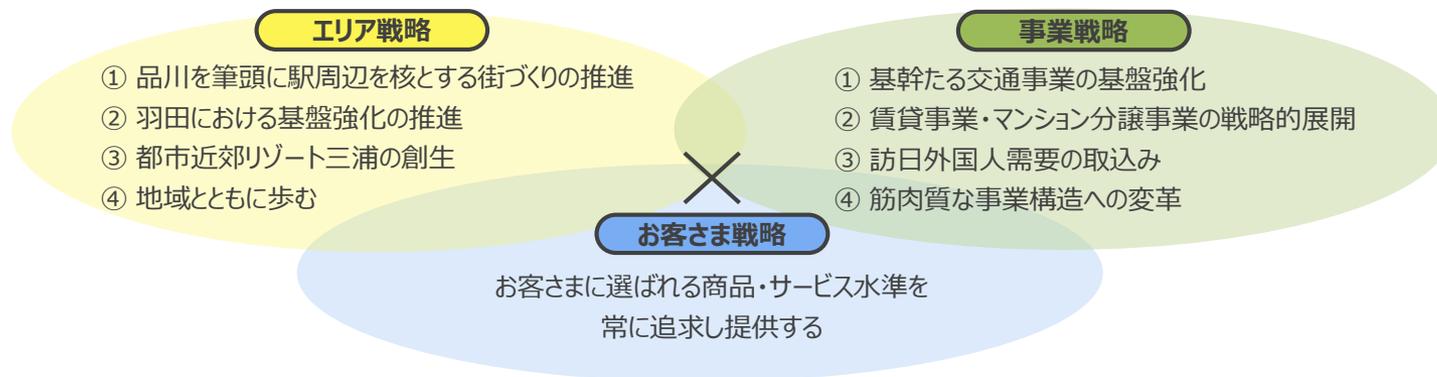
品川・羽田を玄関口として、国内外の多くの人々が  
集う、豊かな沿線を実現する

## 長期経営戦略



## 中期経営計画（2016～2020年度）

東京オリンピック・パラリンピックに向けた好景気を背景に、企業体質の変革に向け、事業再編やお客さま志向の徹底に取り組むとともに、各エリア事業の取り組みを強化し、長期ビジョンの実現に向けた土台づくりを進める期間



2016 ----- 2021 ----- 2026 ----- 2035

## 中期経営計画期間

## 長期経営戦略期間

### 構造変革期

長期ビジョン実現に向けた土台づくりを進める期間

- 品川駅周辺開発期間に備えた収益拡大策の実行
- 事業の選択と集中の継続・強化
- 財務体質の改善

### 成長準備期

品川駅周辺開発事業の本格化および羽田空港アクセスの競合に対応する期間

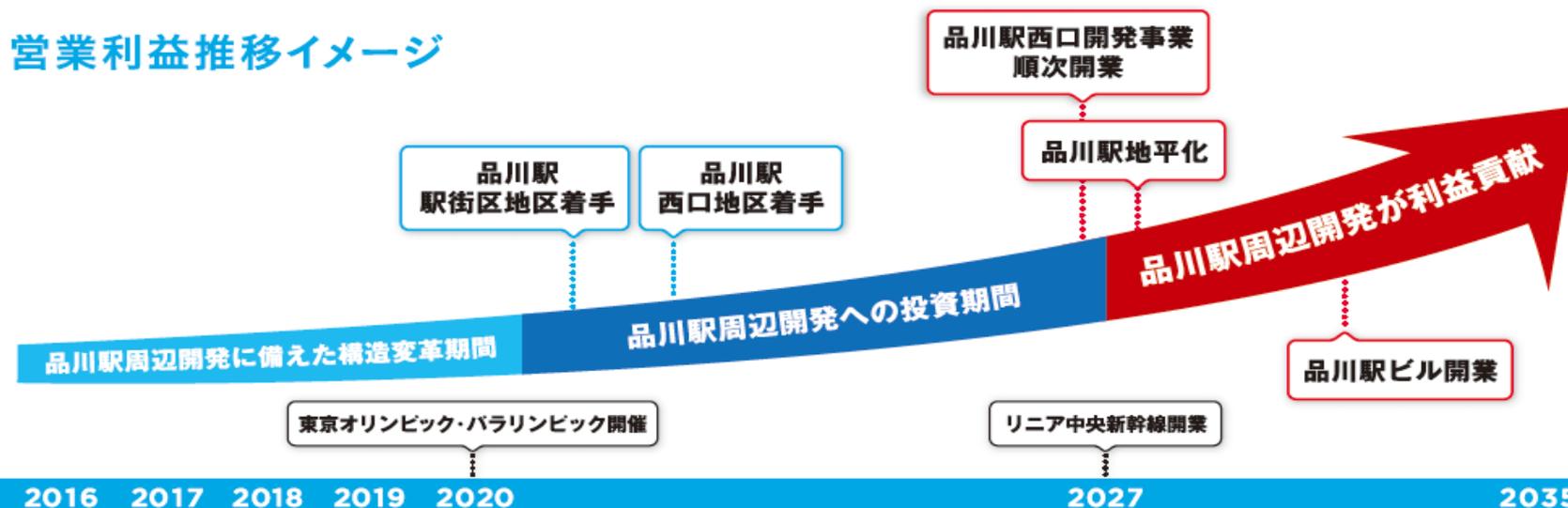
- 大規模投資の実行
- 交通事業の収支構造の改善
- 各エリア事業の利益増加

### 長期ビジョン完遂期

長期ビジョンを完遂する期間

- 品川駅周辺開発事業の順次完成
- 品川エリアと各エリア事業の連携推進
- 長期ビジョンが実現し、飛躍的成長を遂げる

## 営業利益推移イメージ



## 経営指標

目標指標	2018年度 (実績)	2019年度 (予想)	2020年度 (計画)
営業利益 (億円)	401	285	330
EBITDA (億円)	720	617	680
純有利子負債 (億円)	3,841	4,162	4,200
純有利子負債／EBITDA (倍)	5.3	6.7	6.2

### 参考値

	2018年度 (実績)	2019年度 (予想)	2020年度 (計画)
親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)	207	160	170
ROE (%)	7.9	5.8	5.2



	戦略内容	進捗状況
エリア戦略	① 品川を筆頭に駅周辺を核とするまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>品川駅が持つポテンシャルを最大限活用する、新しいまちの創造に向けて<b>着実に進展</b></li> <li>金沢八景駅の駅前開発を推進（金沢シーサイドライン直結完了）、横須賀中央駅の再開発を推進</li> </ul>
	②羽田における基盤強化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>京急 E X インの展開・リブランド</li> <li>羽田エリア周辺への積極的な投資</li> </ul>
	③都市近郊リゾート三浦の創生	<ul style="list-style-type: none"> <li>三浦半島の観光事業活性化</li> </ul>
	④地域とともに歩む	<ul style="list-style-type: none"> <li>I R（統合型リゾート）事業への参画検討</li> </ul>
事業戦略	① 基幹たる交通事業の基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>羽田空港アクセスにおける確固たる地位の確立（加算運賃引下げの実施）</b></li> <li>輸送サービスの高付加価値化等（快適通勤への取り組み強化）</li> <li>安全・安定輸送の継続</li> </ul>
	② 賃貸事業・マンション分譲事業の戦略的展開	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>分譲マンションの安定供給</b></li> <li><b>賃貸オフィスおよび賃貸マンションの安定稼働</b></li> <li><b>横浜市現市庁舎街区における大規模複合ビルの開発</b></li> </ul>
	③訪日外国人需要の取り込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホステル事業の展開</li> <li>より取り込みが図れる各国での宣伝を強化</li> </ul>
	④筋肉質な事業構造への変革	<ul style="list-style-type: none"> <li>流通事業等の再編および統合</li> </ul>

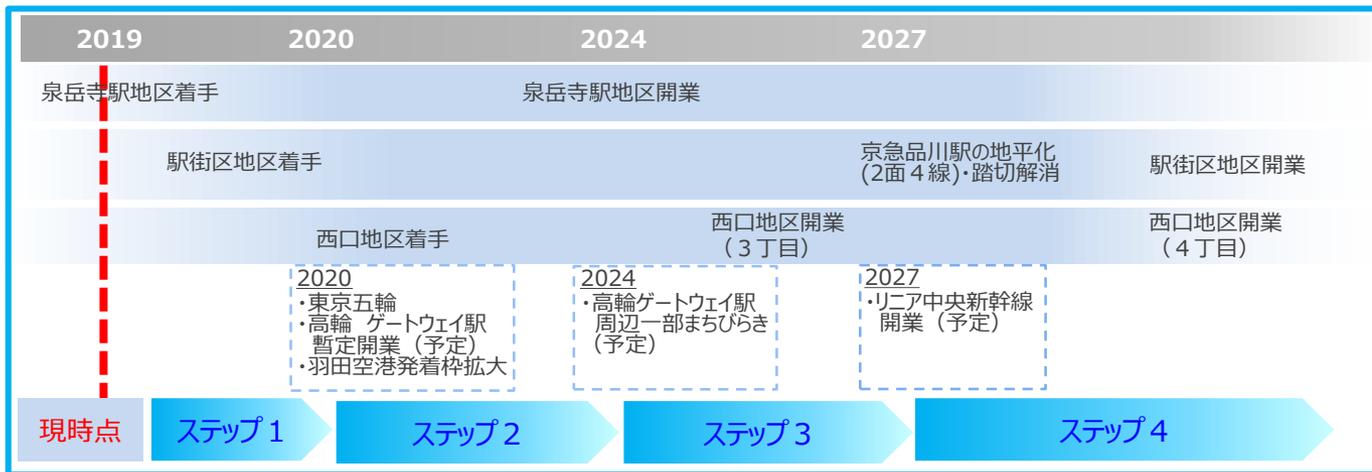
## ■品川駅周辺開発事業の全体計画・スケジュール

- 品川駅が持つポテンシャルを最大限活用する、新しいまちの創造に向けて着実に進展

主要整備内容



スケジュールイメージ



## 品川駅周辺の将来性（品川のポテンシャル）

- 広域交通拠点性の向上・開発余地などを考慮すると、品川駅周辺の将来性は非常に期待される



まちの性格	交通結節点、観光拠点（ホテル） 重工・電機メーカー等 ⇒国際交流拠点（国際的なリーディングカンパニー等）	東京の中心 金融・商社・ プロフェッショナルファーム等	百貨店・製菓等	外資系等	※GoogleMapから引用し当社作成 （50mピッチで同心円を記載） 若者の街 IT・クリエイティブ産業等
乗入路線	京急 JR東日本 +品川地下鉄構想	JR東日本 東京メトロ 都営地下鉄	東京メトロ 都営地下鉄	東京メトロ 都営地下鉄	東急 京王 JR東日本 東京メトロ
広域	JR東海（新幹線） +リニア中央新幹線	JR東海（新幹線） JR東日本（新幹線）	—	—	—
羽田空港 アクセス	11分	約25分	約25分	約20分	約25分
容積率 （主要プロジェクト）	約300～600% ⇒将来約900%以上	約1,500～1,800%	約1,300～1,600%	約700～1,500%	約1,400～1,600%

## コンセプト

### 品川を取り巻く環境

(現状)

- 羽田空港至近 (約11分) の大規模ターミナル (乗降人員110万人/日)
- 歴史と緑の街 (高輪) と新しい街 (港南) が共存
- メーカー等を中心とした大企業の集積 (高輪口は大規模オフィスなし)
- ホテル・MICE集積は国内屈指 (約8,000室強)
- 駅前の大規模開発の余地 (約40ha)

(将来)

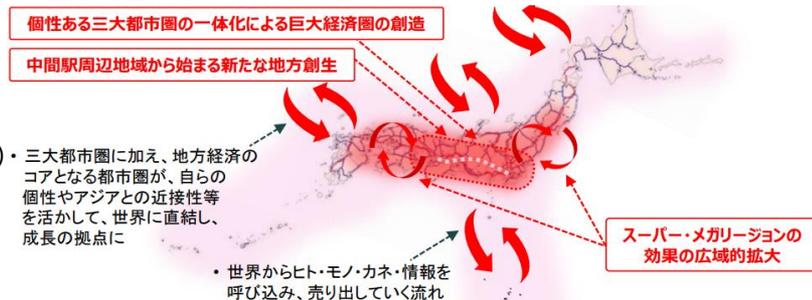
- 東京都は、品川を大丸有に並ぶ拠点として格上げ
- リニア中央新幹線開通・羽田空港国際化推進によって品川がスーパー・メガリージョン※の起点へ ※三大都市圏がリニアを軸に一体化した巨大な都市集積圏域のこと
- 国道15号上空には次世代型交通ターミナル等が設置 (自動運転等)
- 品川地下鉄構想 (品川～白金高輪) により六本木・赤坂地区と接続



※品川駅前に立地するシナワウース



※次世代型交通ターミナルのイメージ  
東京国道「未来の品川駅前空間 (西口) 計画  
～国道15号・品川駅西口駅前広場～◆事業計画◆」から抜粋



※スーパーメガリージョン構想概念図 国土交通省「スーパーメガリージョン構想検討会 最終とりまとめ概要」から抜粋

### 品川のコンセプト

#### 品川の顔となるまちづくり

品川駅の目の前という抜群の好立地を活かし、次の100年に向けた顔となるまちづくりを行う

#### 沿線にシナジー効果を波及させるまちづくり

沿線各地と品川をさらに強固に連携させ、沿線の魅力や特性を引き出し、沿線全体の価値が向上するまちづくりを行う

#### 交通結節点を活かした新たな交流を生み出すまちづくり

一大交通結節点となる品川で情報発信・集積から交流・共創へとつながるまちづくりを行う

## コンセプトをふまえた各地区のまちづくりの方向性

### 各地区の特徴

#### 駅街区地区

- ・品川駅直上・直結
- ・羽田空港国際線増枠、リニア中央新幹線、品川地下鉄構想などにより、拠点性が向上
- ・当社線地平化後は鉄道上空活用が可能となり、国道15号上空整備とあわせネットワーク性が向上



#### 西口地区

- ・品川駅や国道と面的に接し、品川駅の顔となる立地（デッキで駅直結）
- ・国内屈指のホテル・MICE集積
- ・ターミナル駅前において品格ある街区構成と多様な緑が現存する稀有な環境



### まちづくりの方向性

#### 大規模ターミナル直上・直結を活かしたまちづくり

- ・連続立体交差事業等による当社線地平化（2面4線）を実現
- ・駅直上・直結という抜群の利便性を活かした複合施設を計画

##### 【品川駅】

- ・地平化によりJR各線、新幹線との乗換利便性が向上
- ・2面4線化により運転時間短縮 + 空港アクセスの質と量が向上
- ・北品川地区では、踏切除却により安全性と安定輸送が向上し、駅東西の回遊性が向上
- ・駅施設上部には、オフィス・商業・ホテル等の複合施設を配置

##### 【国道上空】

- ・国道15号上空整備により、西口地区と国道上空デッキを介する交通結節機能や賑わい空間を創出

#### 大規模ターミナル駅前の立地を活かした歴史と品格・自然を継承したまちづくり

- ・駅正面で地区のフラッグシップとなる複合施設（オフィス・商業・MICE等）を計画

##### 【高輪3丁目地区】※現シナガワ グース敷地（約25,000㎡）

- ・多様な都市機能と緑豊かな空間が調和した国際交流拠点の形成を目指す
- ・オフィス（拠点形成）、MICE（世界中から人が集まり交流）、商業（時間消費等）ホテル等の複合施設を計画 ※約20万㎡超（虎ノ門ヒルズレベル）を想定

##### 【高輪4丁目地区】※京急第1・7ビル敷地（約8,000㎡）

- ・今後、国道15号・品川駅前広場計画と連携し、開発を検討

## 羽田空港アクセスの強化（加算運賃の引下げ実施）

- 年々航空旅客が増加していることや、羽田空港跡地をはじめとして、空港周辺エリアの開発が活況であることから、加算運賃の引下げを実施し、価格競争力を強化することで、羽田空港アクセスにおける確固たる地位の確立を目指す。

### ●加算運賃の引下げ



#### 【～2020年ごろまでの施策】

- 羽田空港第1・第2ゾーン開発による来街者等増の取り込み
- 川崎市殿町との連絡道路完成
- 羽田空港周辺のホテル・マンション開発推進



#### 【長期的な施策】

- 空港線の引上げ線設置、品川駅地平化・2面4線化による羽田空港アクセス強化



施策をとおして、空港線の強化・活性化を図る



#### （参考）羽田空港周辺の動き

第1ゾーン（HICity）：  
2020年一部、22年全体開業  
総延床13万㎡  
オフィス、商業等



第2ゾーン：  
2020年開業  
総延床7万㎡  
ホテル約1,700室、ホール、商業等



赤枠：当社グループの取り組み、青枠・グレー枠：その他外部事業等  
※GoogleMapから引用し当社作成

## マンション

### 2019年度引渡し予定の主な分譲マンション

物件名	戸数	シェア	所在地	引渡し時期
プライムパークス 品川シーサイド ザ・タワー	819戸	55%	品川区東品川	2019年3月
プライム港南台	183戸	60%	横浜市港南区	2020年2月(予定)

### (参考) 主な分譲マンションの引渡し実績および引渡し計画戸数

2018年度		2019年度		2020年度以降	
・プライムパークス 品川シーサイド ザ・タワー	992戸	・プライムパークス 品川シーサイド ザ・タワー	345戸	プライムパークス 上大岡 ザ・レジデンス ほか	445戸
・プライムパークス 品川シーサイド ザ・レジデンス		・プライム港南台			



プライムパークス品川  
シーサイドザ・レジデンス



プライムパークス品川  
シーサイドザ・タワー



プライム港南台

### 稼働中の賃貸マンション

稼働中の賃貸マンション：32棟・1,345戸、平均稼働率：99.5% ※グループ会社所有物件

## オフィス

物件名	延床面積	持分	所在地	取得時期
T Sプラザビル	32,051㎡	50% (※)	横浜市 神奈川区	2017年9月
芝パークビル	97,294㎡	14.6% (※)	港区 芝公園	2018年3月 ※2019年3月 持分追加取得
高輪エンパイア ビル	3,093㎡	100%	港区高輪	2017年6月

※持分について、T Sプラザビルは信託受益権の割合、芝パークビルはS P Cへの出資割合

### 2017年度取得分の平均稼働率99%、成長投資3棟・約190億円



芝パークビル(東京都港区)



TSプラザビル(横浜市)

# 個別プロジェクト進捗状況④／主なプロジェクトスケジュール

## 梅森プラットホーム



- ・2019年4月1日開業
- ・大森町～梅屋敷駅間の高架下を利用したものづくり複合施設

## 羽田空港跡地第1ゾーン (HICity)

【第1ゾーン (HICity)】

- ・開業予定：2020年一部開業、2022年全面開業
- ・総延床面積：約13万㎡

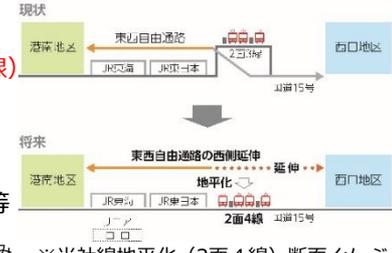


### 京急EXイン 羽田イノベーションシティ

- ・2020年夏 開業予定
- ・客室数：259室

## 品川駅周辺開発

- ・品川駅西口・駅街区開業
- ・当社線地平化 (2面4線)
- ・リニア中央新幹線開通
- ・空港線引上げ線設置
- ・JR東日本羽田アクセス線等



2018年度

2019年度

2020年度

2021年度

2022年度

2023年度以降

- ・加算運賃の引下げ
- ・ラグビーワールドカップ

- ・東京オリンピック・パラリンピック
- ・羽田空港跡地第2ゾーン開業 (延床約7万㎡)

## 京急EXイン 浜松町・大門駅前



- ・2019年3月28日 開業
- ・客室数：111室

## 京急EXイン 羽田・穴守稲荷駅前



- ・2019年8月3日 開業
- ・客室数：160室

## 京急EXイン 日本橋・東京



- ・2020年3月 開業予定
- ・客室数：142室

## 横浜市現市庁舎街区開発

- ・開業予定：2024年度末
- ・延床面積：約12万㎡ (高さ約160m)
- ・大規模複合ビル開発 (オフィス・大学・商業・ホテル等)

※横浜市記者発表資料「現市庁舎街区の事業予定者を決定しました！」を基に当社でまとめ、作成

## みなとみらい 21 中央地区 53 街区開発

- ・竣工予定：2023年11月
- ・延床面積：約18万㎡
- ・オフィス、商業、ホテルなどで構成する大規模複合ビル



## 京急グループ本社ビル

- ・当社線の中心である『横浜』に本社機能を移転
- ・京急電鉄をはじめとするグループ11社の本社機能を集約
- ・「京急ミュージアム」を併設。2020年1月オープン予定



← 京急グループ本社

延床面積：25,831㎡

付帯施設：・京急ミュージアム  
・認可保育所

竣工：2019年9月

京急ミュージアム →

オープン日：2020年1月21日

展示内容：

- ①京急の歴史(保存車両展示)
- ②ジオラマの展示
- ③鉄道シミュレータ、ワークショップ



## みなとみらい21中央地区53街区

- ・オフィス、商業施設、ホテルなどを新設
- ・2棟それぞれ高さ153m、85.5m。合わせて延床面積約182千㎡の大規模開発



物件

みなとみらい53街区  
(WEST、EAST棟)

延床面積：182,825㎡

その他の事業主体：

(株)大林組、ヤマハ(株)、  
日鉄興和不動産(株)

竣工予定：

2023年11月

## 横浜市現市庁舎街区

- ・オフィス、大学、商業施設など、産学連携を展開

- ・観光・集客に資する交通結節拠点としての役割

物件

横浜市現市庁舎街区

延床面積：約12万㎡

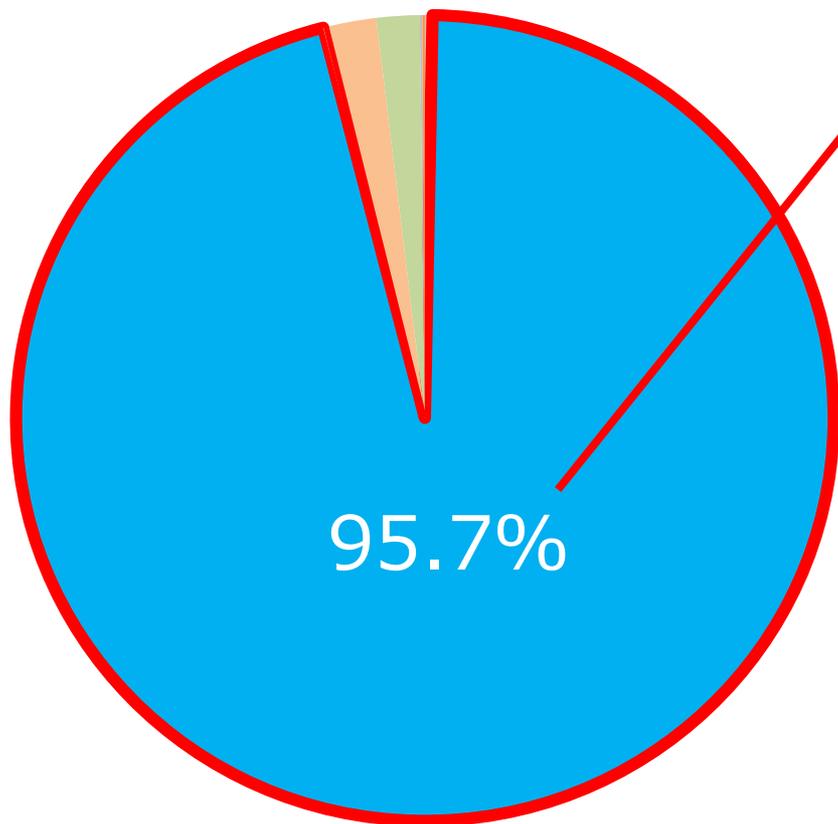
その他の事業主体：

三井不動産(株)ほか6社  
開業予定：2024年度末

# 当社株主の状況および 株主還元施策について

◆株式数：275,760,547株 ※自己株式を含む

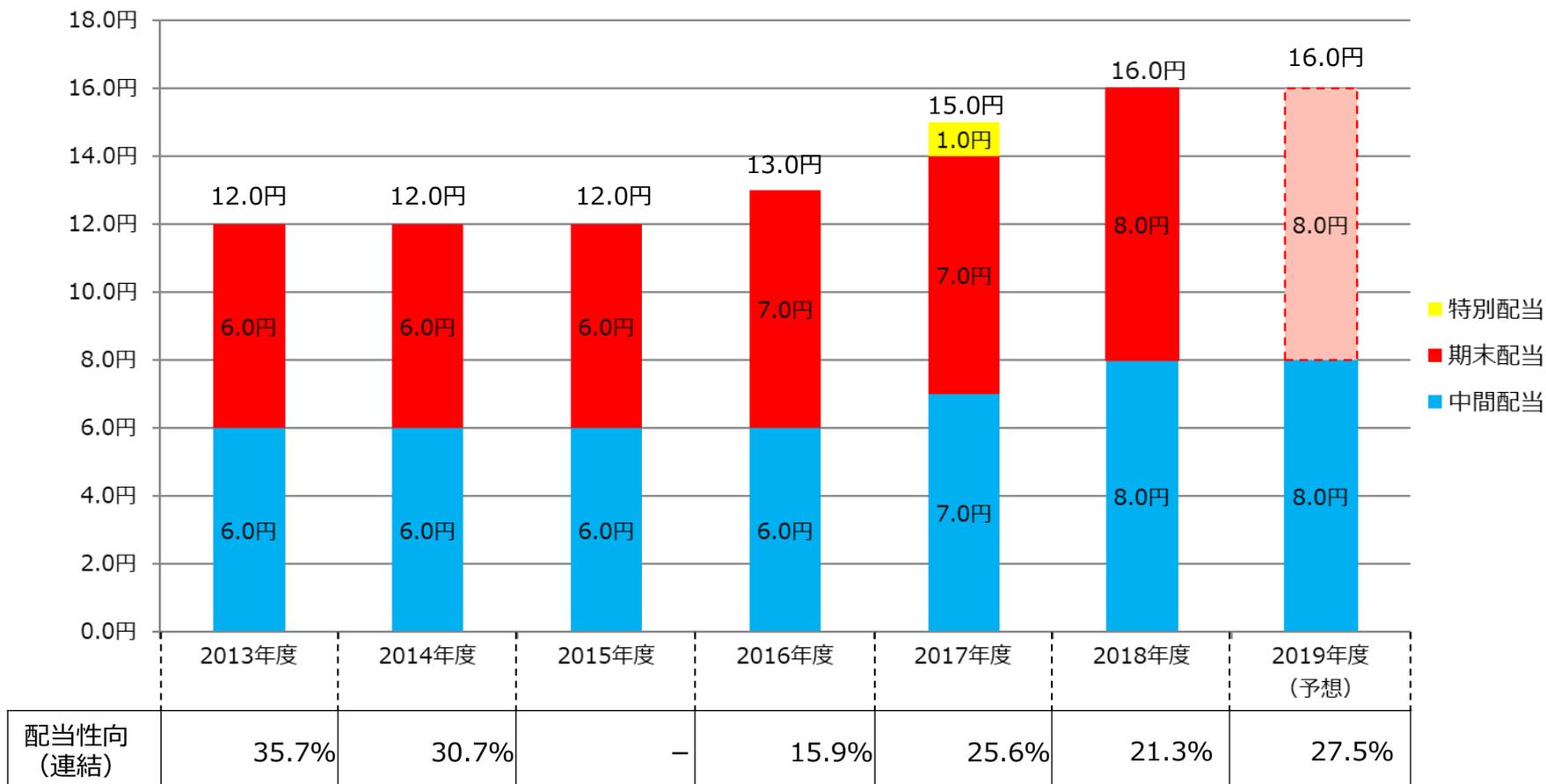
◆株主数：28,683名



区分	株主数（名）	比率
個人	27,454	95.7%
事業法人	618	2.1%
外国人	479	1.7%
金融機関	95	0.3%
証券会社	33	0.1%
その他	4	0.1%
合計	28,683	100.0%

## 配当方針：安定配当の継続を基本とし、業績や財務状況等を勘案して行う。

※2017年10月1日の株式併合の影響を考慮して表示



## 株主優待制度の概要

- 100株以上ご所有の株主様※に「京急グループ施設株主優待割引券」を贈呈



京急E Xホテル・E Xイン  
宿泊割引券



天然温泉 平和島  
利用料金割引券



市原京急カントリークラブ  
プレー料金割引券



京急百貨店  
買物優待券



葉山マリーナ  
利用料割引券



京急油壺マリンパーク  
入園料割引券

※ 100株以上500株未満の株主様にお送りする優待割引券と、500株以上の株主様にお送りする優待割引券は、各施設の枚数が異なります。

# 株主還元について（株主優待制度②）

## 株主優待制度の概要

- 100株以上ご所有の株主様に、「電車・バス全線きっぷ」を贈呈
- 2,500株以上ご所有の株主様は、「京急 E Xホテル・京急 E Xイン無料宿泊券」と選択可能

### 100株以上 2,500株未満

ご所有株式数	電車・バス全線きっぷ	
	9月末(基準日)	3月末(基準日)
100株以上 200株未満	—	2枚*
200株以上 500株未満	2枚	2枚
500株以上 1,500株未満	4枚	4枚
1,500株以上 2,500株未満	8枚	8枚

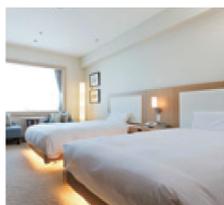
### 2,500株以上 15,000株未満

ご所有株式数	電車・バス全線きっぷ		京急EXホテル・京急EXイン 無料宿泊券(シングル)	
	9月末(基準日)	3月末(基準日)	9月末(基準日)	3月末(基準日)
2,500株以上 5,000株未満	15枚	15枚	1枚	1枚
5,000株以上 10,000株未満	30枚	30枚	2枚	2枚
10,000株以上 15,000株未満	60枚	60枚	4枚	4枚

\* 毎年3月31日の基準日時時点の株主様に限り年1回発行(毎年5月中旬に発送)

100株以上ご所有のすべての株主様  
京急グループ施設 株主優待割引券を贈呈

割引例



**京急EXホテル・京急EXイン**

100株以上 500株未満	半期に 2枚	スタンダードプランから <b>1,000円割引</b>
500株以上	半期に 4枚	

※各館の客室料金は変動料金のため、ご宿泊日により異なります。



**京急ストア もとまちユニオン**

100株以上 500株未満	半期に 20枚	<b>50円割引</b>
500株以上	半期に 40枚	

※1回1,000円以上(税込)のお買い上げごとに1枚利用可能



**羽田空港国際線・国内線ターミナル 駅構内  
「セブン-イレブン」**

100株以上 500株未満	半期に 1枚	<b>コーヒー1杯 無料</b>
500株以上	半期に 2枚	

## 株主優待制度の概要

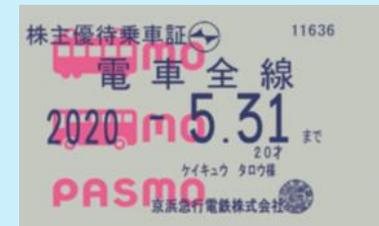
- 15,000株以上ご所有の株主様が3年以上継続保有していただいた場合、さらに「電車・バス全線きっぷ」を贈呈

### 15,000株以上（半期ごとに発行）

ご所有株式数	電車 全線バス	バス 全線バス	電車・バス 全線きっぷ	京急EXホテル・ 京急EXイン 無料宿泊券(シングル)	さらに3年以上 継続の場合		
	9月末・3月末(基準日)	9月末・3月末(基準日)	9月末・3月末(基準日)	9月末・3月末(基準日)	電車・バス 全線きっぷ	電車・バス 全線きっぷ	
15,000株以上 22,500株未満	1枚	—	90枚	6枚	15枚	15枚	
22,500株以上 30,000株未満	1枚	1枚	135枚	6枚	15枚	15枚	
30,000株以上	電車・バス共通全線バス1枚		180枚	6枚	15枚	15枚	

### 【各種パス（イメージ）】

◆電車全線パス、電車・バス全線パスは、PASMOへ移し替え可能



## 株主プレミアムイベント

- 当社グループ施設での株主様限定イベントの実施により、事業内容の理解促進を目指す

### 【本年8月実施】京浜急行バス営業所および整備工場見学ツアー

#### 【実施内容】

- ・点検、整備の見学
- ・アルコール検知器や洗車機、京急バスシミュレーターなどの体験



#### 《過去の実施例》

### 京急創立120周年記念 三浦半島の魅力をたっぷり感じるツアー

#### 【実施内容】

- ・KEIKYU OPEN TOP BUSの乗車
- ・京急油壺マリンパークの見学（施設見学、あしかとの握手など）



### 京急創立120周年記念 京急発祥の地を巡る 川崎大師見学ツアー

#### 【実施内容】

- ・川崎大師への参拝
- ・大師線地下化工事の現場見学



## 当社株式をご所有いただくと…

	100株	500株	2,500株	15,000株
<b>投資額</b> ※1	約219,500円	約1,097,500円	約5,487,500円	約32,925,000円
<b>年間配当</b> ※2	1,600円	8,000円	40,000円	240,000円
<b>株主優待</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 優待割引券※3 (年2回)</li> <li>● 電車・バス全線きっぷ2枚 <u>(年1回)</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 優待割引券 (年2回)</li> <li>● 電車・バス全線きっぷ4枚 (年2回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 優待割引券 (年2回)</li> </ul> <p style="text-align: center;">下記から 1つ選択</p> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電車・バス全線きっぷ15枚 (年2回)</li> <li>または</li> <li>● ホテル宿泊券1枚 (年2回)</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 優待割引券 (年2回)</li> <li>● 電車・バス全線きっぷ15枚 (年2回)</li> </ul> <p style="text-align: center;">下記から1つ選択</p> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電車全線パス1枚 (半年有効：年2回)</li> <li>または</li> <li>● 電車・バス全線きっぷ90枚 (年2回)</li> <li>または</li> <li>● ホテル宿泊券6枚 (年2回)</li> </ul> </div>
<p>※1 2019年11月14日の終値で算出、株式売買手数料等は考慮しておりません。</p> <p>※2 年間配当は、1株あたり年間16円で算出、源泉徴収前の金額です。</p> <p>※3 100株以上500株未満の株主様にお送りする優待割引券と、500株以上の株主様にお送りする優待割引券は、各施設の枚数が異なります。</p>				

# (参考) 当社の株価推移

( 2018年4月を100とした場合の当社株価と日経平均の推移)





【ご注意】

この資料に記載の情報のうち、過去の事実以外のものは将来の見通しであり、発表時点において想定した各種前提条件を基に作成しております。こうした記載情報は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を含むものです。実際の業績は、様々な要因によって異なる結果となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

会社名	京浜急行電鉄株式会社（Keikyu Corporation）
創立	1898年（明治31年）2月25日（前身の大師電気鉄道(株)の創立） 1948年（昭和23年）6月1日（京浜急行電鉄(株)の発足）
資本金	437億円
グループ会社数	48社(当社含まず)
従業員数	9,170名（うち京急電鉄：2,869名）
事業内容	交通事業、不動産事業、レジャー・サービス事業、流通事業、その他
上場証券取引所	東証1部（証券コード：9006） 1949年上場
時価総額	6,052億円（2019年11月14日現在）
格付け	A+（日本格付研究所（JCR））